

〔学会〕 第1061回 千葉医学会例会 第20回 千葉精神科集談会

日 時：平成15年1月25日（土）10:15～18:20
場 所：ほてい家

1. ボツリヌス療法を行った遅発性ジストニアの1例

今井逸雄, 大掛真太郎, 半田 聰
藤崎美久, 宮城島大, 清水栄司
篠田直之, 伊豫雅臣 (千大)

遅発性ジストニアを合併した統合失調症患者に対してボツリヌス毒素療法を行った。遅発性ジストニアは難治性であり患者の苦痛も強い。近年ボツリヌス毒素療法は遅発性ジストニアに対する高い有効性が報告されている。今回その1例を経験しジストニアの軽度改善を認めた。

2. 解離性障害・転換性障害の入院治療：行動制限の視点から

半田 聰, 今井逸雄, 藤崎美久
宮城島大, 篠田直之, 清水栄司
伊豫雅臣 (千大)

解離状態での自傷行為や失立などの転換症状を繰り返した19歳女性。患者は症状に圧倒され、自ら対処する気力を喪失していた。患者自身に自己の行為に対する責任を引き受けでもらい、「自分では症状を制御できない」との歪んだ認知を修正することを目的として、自傷行為に焦点を当てた行動制限療法を行い、症状の軽快と洞察を得た。

3. 難治性うつ病に対し mECT と TMS の併用を試みた1症例

西澤 馨, 井貫正彦, 白石哲也
野々村司, 熊切 力, 中里道子
伊豫雅臣 (千大)

高齢で発症した妄想性うつ病の患者に対して、薬物療法のみでは効果を得られず、今まで維持 mECT を行なってきた。今回の入院では新しい試みとして TMS と抗精神病薬（ペロスピロン）の導入を行なった。TMS やペロスピロン単独では充分な効果が得られなかつたが、mECT と併用することにより、mECT の施行回数

を減らし、大きな改善率を得ることが出来た。

4. クロザピンが有効であった統合失調症の1例

井貫正彦, 西澤 馨, 野々村司
熊切 力, 中里道子, 伊豫雅臣
(千大)
鈴木 均 (松戸市立)

治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン治療を行なったところ、有効性が示された。陽性症状だけでなく陰性症状に対しても有効であった。さらに、クロザピンにも、ハロペリドール等と同様に、有効血中濃度が存在することが示唆された。

5. クロザピンの投与により無顆粒球症を生じ、その治療に難渋した1例

原口 正, 佐藤康一, 柳橋 諭
渡邊博幸, 伊豫雅臣 (千大)
橋本 佐 (銚子市立総合)
浅香琢也 (精神科医療センター)

クロザピン (CLZ) は致死的副作用である無顆粒球症を惹起し得るため、血液モニタリングが不可欠である。本例は CLZ 誘発性無顆粒球症に G-CSF (顆粒球コロニー形成刺激因子) 製剤を使用した本邦における初めての症例であり、G-CSF 大量投与、無菌管理により重篤な合併症なく救命し得た。

6. 覚醒剤乱用者におけるグルタチオン S トランスフェラーゼ M1 (GSTM1) の遺伝子多型に関する研究

小泉裕紀, 橋本謙二, 熊切 力
清水栄司, 小松尚也, JGIDA
伊豫雅臣 (千大)

グルタチオン抱合することにより、ドーパミンの自己酸化によるフリーラジカルの生成を抑制する酵素であるグルタチオン S-トランスフェラーゼ M1 (GSTM1) 遺伝子の欠損多型を覚醒剤乱用者と健常者において調査した。その結果、女性乱用者において女